Author 上杉、誠(Uesugi, Makoto) Publisher 慶應義塾大学 Publication year 2022 Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.) JalC DOI Abstract 本研究の目的は、フランスロマン主義時代における芸術家を対象とした「伝記」ジャンルの誘解である。「伝記の世紀」と呼ばれた19世紀における「伝記」ジャンルについて、近年注目が集まっていることを踏まえ(Diaz, 2011; Casalena, 2012; Jefferson, 2012)、19世紀初頭において汎コーロッパ的な合声を博していたカノーヴァについて、体家スタンダールが日記や書簡に知いされたカノーヴァ伝(Missirini, 1824、Quatremère de Quincy, 1834)か19世紀の辞典類(Biographie universelle; Biographie nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique)における音及としたがら、スタンダールによるカノーヴァ保(Missirini, 1824、Quatremère de Quincy, 1834)か19世紀の辞典類(Biographie universelle; Biographie nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique)における音及につい調査を行った。以上を踏まえ、同時代において語らもカカノーヴァ像と比較しながら、スタンダールによるカナーヴァ像で、ロいて、音かを発表した。②ア・リエでの制理機会、②キャリア形成における光がる、近によるから論した。こうして「伝記」ジャンルの問題だけではなく、美術家像をめぐる諸問題を19世紀が頭の文脈において論じると表した。②については、スタンダールと同時代人にみる証言と比較、カノーヴァの作品制作の特徴を取り上げた。②については、スタンダールと同時代人にみる証言と比較リカノーヴァの作品制作の特徴を取り上げた。②については、スタンダールと同時代人にみる証言と比較リカノーヴァの作品制作の特徴を取り上げた。②については、スタンダールと同時代人にみる証言と比較リカノーヴァの作品制作の特徴を取り上げた。②については、スタンダールと同時代人にみる証言と比較リカノーヴァの作品制作の特徴を取り上げた。②については、スタンダールと同時代人にみる証言と比較リカノーヴァの作品制作の特徴を取り上げた。②については、スタンダールと同時代人による証言と比較リカノージアの作品制作の特徴を取り上げた。②については、スタンダールと同時代人による証言といて、スタンダールと同時代人になる証言と比較リカノージアの作品制作の特徴を取り上による記念については、スタンダールと同時代人になる証言と比較リカノージアのの情報を論して、イタリアとフランスのあいたの文化のでは、では、は、これでは、は、ないでは、は、ないでは、は、ないでは、は、ないでは、は、ないでは、は、ないでは、は、ないでは、は、ないでは、は、ないでは、ないで	ero Associated Repository of Academic resouces						
Author 上杉、誠(Uesugi, Makoto) Publisher 慶應義塾大学 Publication year 2022  Jitite 学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)  JaLC DOI  Abstract 本研究の目的は、フランスロマン主義時代における芸術家を対象とした「伝記」ジャンルの読解である。「伝記の世紀」と呼ばれた19世紀における「伝記」ジャンルについて、近年注目が集まっていることを踏まえ(Diaz, 2011; Casalena, 2012; Jefferson, 2012)、19世紀初頭において汎ヨーロッパ的な名声を博していたカノーヴァについて、作家スタンダールが日記や書筒、美術社群、紀行文などで言及している個所の調金を行った。カノーヴァについて、19世紀に設されたカノーヴァ伝(Missirini, 1824; Quatremère de Quincy, 1834)や19世紀の辞典類(Biographie universelle; Biographie nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique)における言及につい調査を名行った。以上を踏まえ、同時代において語られるカノーヴァ保と比較しながら、スタンダールによるカノーヴァ像について論文を発表した。②アトリエでの制作過程、②キャリア形成における子よナの役割。②ナポレオンとの関係、②浄ボリアロ収への寄与、という4つの対点から論じた。こうして「伝記」ジャンルの問題だけではなく、芸術家像をあくる諸間を19世紀初頭の文脈において論じることができた。②については、スタンダールと同時代人による配言と比較しカノーヴァの作品制作の特徴を取り上げた。②については、「芸術家」が公衆と取り結ぶ関係を適して、「伝記→人生」が古代以来果たしてきた範別としての役割を論じた。③については、芸術家と権力者との関係について、クリス、クルツやウィットコウアーといった芸術家像に関する古典的な研究を踏まえて論じた。③については、戦争と芸術作品の帰属の問題を通して、イタリアとフランスのあいだの文化交流と政治的対立の関係を論じた。 The purpose of this study is to read the "biography" genre of artists in the French Romantic perior The recent studies having shown the importance of the "biography" genre of artists in the French Romantic perior The recent studies having shown the importance of the "biography" genre of artists in the French Romantic perior The recent studies having shown the importance of the "biography" genre of artists in the French Romantic perior The recent studies having shown the importance of the "biography" genre of artists in the French Romantic perior The recent studies having shown the importance of the "biography" genre of artists in the French Romantic perior Romantic perior The purpose of this study is to read the "biography" genre of artists in the French Romantic perior The perior Hut Provide Arman Romantic Perior The perior Hut Provide Arman Roman Roma	Title	フランスロマン主義時代における芸術家の「評伝」をめぐる研究					
Publication year   2022   少事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)   Jatice   学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)	Sub Title	Study of artists biographies in the French Romantic period					
Publication year   2022   学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)     JaLC DOI	Author	上杉, 誠(Uesugi, Makoto)					
Jititle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)  Abstract 本研究の目的は、フランスロマン主義時代における芸術家を対象とした「伝記」ジャンルの読解である。「伝記の世紀」と呼ばれた19世紀における「伝記」ジャンルについて、近年注目が集まっていることを踏まえ (Diaz, 2011; Casalena, 2012; Jefferson, 2012) 、19世紀初頭において汎ヨーロッパ的な名声を博していたカノーヴァについて、作家スタンダールが目記や書筒、美術批評、紀行文などで言及している個所の調査を行った。カノーヴァについては、19世紀に出版されたカノーヴァ伝(Missirini, 1824; Quatremère de Quincy, 1834)や19世紀の辞典類(Biographie universelle; Biographie nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique)における言及につい調査を行った。以上を踏まえ、同時代において語られるカノーヴァ像と比較しながら、スタンダールによるカノーヴァ像について論文を発表した。②アトリエでの制作過程、②キャリア形成におけるメセナの役割、③ナボレオンとの関係、③美術品のイタリア回収への寄与、という4つのは点から論じた。こうして「伝記」ジャンルの問題だけではなく、芸術家像をめぐる語問題を19世紀初頭の文脈において論じることができた。①については、スタダールと同時代人による証言と比較しカノーヴァの作品制作の特徴を取り上げた。②については、「芸術家」が公衆と取り結ぶ関係を通して、「伝記=人生」が古代以来果たしてきた範例としての役割を論じた。③については、芸術家を権力者との関係について、クリス、クルツやウィットコウアーといった芸術家像に関する古典的な研究を踏まえて論じた。③については、戦争と芸術作品の帰属の問題を通して、イタリアとフランスのあいだの文化交流と政治的対立の関係を論じた。 The purpose of this study is to read the "biography" genre of artists in the French Romantic perior The recent studies having shown the importance of the "biography" genre in the 19th century, which was called the "century of biography" (Diaz, 2011; Casalena, 2012; Jefferson, 2012), this study focus on Canova, neoclassical sculptor, who enjoyed the fame in all Europe in the early 19th century, and, especially, on Stendhal's references to this sculptor in his diaries, art criticism, and travelogues. I investigate also Canova's biographies published in the 19th century (Missirini, 1824 Quatremère de Quincy, 1834) and 19th-century diornaries (Biographie universelle; Biographie nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique). Based on the above, I presented a paper of Stendhal's image of Canova, companing it with the image of Canova described in the same perior The paper discusses the following four perspectives: 1) the process of production in the studio of sculptor, 2) the role of the patronage in the formation of his career, 3) his relationship with Napoleon, and 4) his contribution to the restitution of art works in Italy in1815. In this way, I was able to dis	Publisher	慶應義塾大学					
Abstract 本研究の目的は、フランスロマン主義時代における芸術家を対象とした「伝記」ジャンルの読解である。「伝記の世紀」と呼ばれた19世紀における「伝記」ジャンルについて、近年注目が集まっていることを踏まえ(Diaz、2011; Casalena、2012; Jefferson、2012)、19世紀初頭において汎ヨーロッパ的な名声を博していたカノーヴァについて、作家スタンダールが日記や書簡、美術批評、紀行文などで言及している個所の調査を行った。カノーヴァについては、19世紀に出版されたカノーヴァ伝(Missirini, 1824; Quatremere de Quincy、1834)や19世紀の辞典類(Biographie universelle; Biographie nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique)における言及についる場合を含えた。①アトリエでの制作過程、②キャリア形成における大力・プァ像について論文を発表した。①アトリエでの制作過程、②キャリア形成におけるメセナの役割、③ナボレオンとの関係、②美術品のイタリア回収への寄与、という4つの点がら論じた。こうして「伝記」ジャンルの問題だけではなく、芸術家像をめぐる諸問題を19世紀初頭の文脈において論じることができた。①については、スタンダールと同時代人による証言と比較しカノーヴァの作品制作の特徴を取り上げた。②については、「芸術家」が公衆と取り結ぶ関係を通して、「伝記=人生」が古代以来果たしてきた範例としての優別を論じた。③については、芸術家と権力者との関係について、クリス、クルツやウィットコウアーといった芸術家像に関する古典的な研究を踏まえて論じた。②については、戦争と芸術作品の帰属の問題を通して、イタリアとフランスのあいだの文化交流と政治的対立の関係を論じた。 The purpose of this study is to read the "biography" genre of arists in the French Romantic period The recent studies having shown the importance of the "biography" genre in the 19th century, which was called the "century of biography" (Diaz, 2011; Casalena, 2012; Jefferson, 2012), this study focus on Canova, neoclassical soculptor, who enjoyed the farme in all Europe in the early 19th century, and, especially, on Stendhal's references to this sculptor in his diaries, art criticism, and travelogues. I investigate also Canova's biographies published in the 19th century (Missinini, 1824) Quatremère de Quincy, 1834) and 19th-century dictionaries (Biographie universelle; Biographie nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique). Based on the above, I presented a paper of Stendhal's image of Canova, comparing it with the image of Canova described in the studio of sculptor, 2) the role of the patronage in the formation of his career, 3) his relationship with Napoleon, and 4) his contribution to the restitution of art works in Italy int1815. In this way, I was able to discuss not only the issues of the "biography" genre, but also the various issues surrounding the image of the artist in the context of the early 19th cent	Publication year	ar 2022					
本研究の目的は、フランスロマン主義時代における芸術家を対象とした「伝記」ジャンルの読解である。「伝記の世紀」と呼ばれた19世紀における「伝記」ジャンルについて、近年注目が集まっていることを踏まえ(Diaz、2011; Casalena, 2012; Jefferson, 2012)、19世紀初頭において汎、ヨーロッパ的な名声を博していたカノーヴァについて、作家スタンダールが日記や書簡、美術批評、紀行文などで言及している個所の調査を行った。カノーヴァについては、19世紀に出版されたカノーヴァ伝。例では、1834)や19世紀の辞典類(Biographie universelle; Biographie nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique)における言及につい調査を行った。以上を踏まえ、同時代において語られるカノーヴァ像と比較しながら、スタンダールによるカノーヴァ像について論文を発表した。①アトリエでの制作過程、②キャリア形成におけるメセナの役割、③ナポレオンとの関係、④美術品のイタリア回収への寄与、という4つの表点から論じた。こうして「伝記」ジャンルの問題だけではなく、芸術家像をめくる諸問題を19世紀初頭の文脈において論じることができた。①については、スタンダールと同時代人による証言と比較しカノーヴァの作品制作の特徴を取り上げた。②については、「芸術家」が公衆と取り結ぶ関係を通して、「伝記=人生」が古代以来果たしてきた範例としての役割を論じた。③については、芸術家をある当時の表別を指力者との関係について、クリス、クルツやウィットコウアーといった芸術家像に関する古典的な研究を踏まえて論じた。④については、戦争と芸術におい帰属の問題を通して、イタリアとフランスのあいだの文化交流と政治的対立の関係を論じた。 The purpose of this study is to read the "biography" genre of artists in the French Romantic period The recent studies having shown the importance of the "biography" genre in the 19th century, which was called the "century of biography" (Diaz、2011; Casalena, 2012; Jefferson, 2012), this study focus on Canova, neoclassical sculptor, who enjoyed the fame in all Europe in the early 19t century, and, especially, on Stendhal's references to this sculptor in his diaries, art criticism, and travelogues. I investigate also Canova's biographies published in the 19th century (Missirini, 1824 Quatremère de Quincy, 1834) and 19th-century dictionaries (Biographie universelle; Biographie nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique). Based on the above, I presented a paper of Stendhal's image of Canova, comparing it with the image of Canova described in the same period The paper discusses the following four perspectives: 1) the process of production in the studio of sculptor, 2) the role of the patronage in the formation of his career, 3) his relationship with Napoleon, and 4) his contribution to the restitution of art works in Italy int315. In this way, I was able to discuss not only the issues of the "biography" genre, but also the variou	Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)					
である。「伝記の世紀」と呼ばれた19世紀における「伝記」ジャンルについて、近年注目が集まっていることを踏まえ(Diaz、2011; Casalena、2012; Jefferson、2012)、19世紀初頭において別ヨーロッパがな名声を構していたカノーヴァについて、作家スタンダールが日記や書簡、美術批評、紀行文などで言及している個所の調査を行った。カノーヴァについては、19世紀に出版されたカノーヴァについては、19世紀に出版されたカノーヴァ伝(Missirini, 1824; Quatremère de Quincy, 1834)か19世紀の辞典類(Biographie universelle; Biographie nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique)における言及につい調査を行った。以上を踏まえ、同時代において語られるカノーヴァ像と比較しながら、スタンダールによるカノーヴァ像について論文を発表した。①アトリエでの制作過程、②キャリア形成におけるメセナの役割、③ナポレオンとの関係、④美術品のイタリア回収への寄与、という4つの4点から論じた。こうして「伝記」ジャンルの問題だけではなく、芸術家像をめぐる諸問題を19世紀初頭の文脈において論じることができた。①については、スタンダールと同時代人による証言と比較しカノーヴァの作品制作の特徴を取り上げた。②については、「芸術家」が公衆と取り結ぶ関係を適して、「伝記=人生」が古代以来果たしてきた範例としての役割を論じた。②については、芸術家と権力者との関係について、クリス、クルツやウィットコウアーといった芸術家像に関する古典的な研究を踏まえて論じた。②については、戦争と芸術作品の帰属の問題を通して、イタリアとフランスのあいだの文化交流と政治的対立の関係を論じた。③については、中とフランスのあいだの文化交流と政治的対立の関係を論じた。 The purpose of this study is to read the "biography" genre of artists in the French Romantic period The recent studies having shown the importance of the "biography" genre in the 19th century, which was called the "century of biography" (Diaz、2011; Casalena, 2012; Jefferson, 2012), this study focus on Canova, neoclassical sculptor, who enjoyed the fame in all Europe in the early 19th century, and, especially, on Stendhal's references to this sculptor in his diaries, art criticism, and travelogues. I investigate also Canova's biographies published in the 19th century (Missirini, 1824 Quatremère de Quincy, 1834) and 19th-century dictionaries (Biographie universelle; Biographie nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique). Based on the above, I presented a paper of Stendhal's image of Canova, comparing it with the image of Canova described in the same period The paper discusses the following four perspectives: 1) the process of production in the studio of sculptor, 2) the role of the patronage in the formation of his career, 3) his relationship with Napoleon, and 4) his contribution to the restitution of art works in Italy in1815. In this way, I was able to discuss not only the issues of the	JaLC DOI						
artists and those in power, based on the studies on the image of artists such as Kris, Kurz, and Wittkower. Regarding the last point, I discussed the cultural exchange and the political conflict between Italy and France.	である。「伝記の世紀」と呼ばれた19世紀における「伝記」ジャンルについて、近年っていることを踏まえ(Diaz, 2011; Casalena, 2012; Jefferson, 2012)、19世紀初頭 ヨーロッパ的な名声を博していたカノーヴァについて、作家スタンダールが日記や書評、紀行文などで言及している個所の調査を行った。カノーヴァについては、19世紀たカノーヴァ传(Missirini, 1824; Quatremère de Quincy, 1834)や19世紀の辞典類(Bi universelle; Biographie nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique)における調査を行った。以上を踏まえ、同時代において語られるカノーヴァ像と比較しながらールによるカノーヴァ像について論文を発表した。①アトリエでの制作過程、②キャおけるメセナの役割、③ナポレオンとの関係、④美術品のイタリア回収への寄与、と点から論じた。こうして「伝記」ジャンルの問題だけではなく、芸術家像をめぐる諸紀初頭の文脈において論じることができた。①については、スタンダールと同時代人と比較しカノーヴァの作品制作の特徴を取り上げた。②については、「芸術家」が公ぶ関係を通して、「伝記=メンルの問題だけではなく、芸術家像をめくる諸紀初頭の女脈において論しることができた。①については、スタンダールと同時代人と比較しカノーヴァの作品制作の特徴を取り上げた。②については、「芸術家」が公ぶ関係を通して、「伝記=人生」が古代以来果たしてきた範例としての役割を論じたては、芸術家と権力者との関係について、クリス、クルツやウィットコウァーといっに関する古典的な研究を踏まえて論じた。②については、戦争と芸術作品の帰属の問、イタリアとフランスのあいだの文化交流と政治的対立の関係を論じて、The purpose of this study is to read the "biography" genre of artists in the French Rom The recent studies having shown the importance of the "biography" genre in Ithe 19th c which was called the "century of biography" (Diaz, 2011; Casalena, 2012; Jefferson, 21 study focus on Canova, neoclassical sculptor, who enjoyed the fame in all Europe in the century, and, especially, on Stendhal's references to this sculptor in his diaries, art crititravelogues. I investigate also Canova's biographies published in the 19th century (Mis Quatremère de Quincy, 1834) and 19th-century dictionaries (Biographie universelle; B nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique). Based on the above, I presented Stendhal's image of Canova, comparing it with the image of Canova described in the Stendhal's image of Canova, comparing it with the image of Canova described in the supplor, 2) the role of the patronage in the formation of his career, 3) his relationship v Napoleon, and 4) his contribution to the restitution of art works in Italy in1815. In this wable to discuss not only the issues of the "biography" genre, but also the various issue surrounding the image of the artist in the context of the early 19th century. Regarding the point,						
Notes	Notes						
Genre Research Paper	Genre	Research Paper					
URL https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-20210177	URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-20210177					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 2021 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	文学部	職名	助教	補助額	300 (	<b>^</b> \ \ =	一円
初九八次有	氏名	上杉 誠	氏名 (英語)	UESUGI Makoto	加妙額	300 (A)	<b>A</b> ) T	-17

#### 研究課題 (日本語)

フランスロマン主義時代における芸術家の「評伝」をめぐる研究

### 研究課題 (英訳)

Study of Artists Biographies in the French Romantic Period

## 1. 研究成果実績の概要

本研究の目的は、フランスロマン主義時代における芸術家を対象とした「伝記」ジャンルの読解である。「伝記の世紀」と呼ばれた 19 世紀における「伝記」ジャンルについて、近年注目が集まっていることを踏まえ(Diaz, 2011; Casalena, 2012; Jefferson, 2012)、19 世紀初頭において汎ヨーロッパ的な名声を博していたカノーヴァについて、作家スタンダールが日記や書簡、美術批評、紀行文などで言及している個所の調査を行った。カノーヴァについては、19 世紀に出版されたカノーヴァ伝(Missirini, 1824; Quatremère de Quincy, 1834)や 19 世紀の辞典類(Biographie universelle; Biographie nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique)における言及について調査を行った。以上を踏まえ、同時代において語られるカノーヴァ像と比較しながら、スタンダールによるカノーヴァ像について論文を発表した。①アトリエでの制作過程、②キャリア形成におけるメセナの役割、③ナポレオンとの関係、④美術品のイタリア回収への寄与、という4つの視点から論じた。こうして「伝記」ジャンルの問題だけではなく、芸術家像をめぐる諸問題を 19 世紀初頭の文脈において論じることができた。①については、スタンダールと同時代人による証言と比較しカノーヴァの作品制作の特徴を取り上げた。②については、「芸術家」が公衆と取り結ぶ関係を通して、「伝記=人生」が古代以来果たしてきた範例としての役割を論じた。③については、芸術家と権力者との関係について、クリス、クルツやウィットコウアーといった芸術家像に関する古典的な研究を踏まえて論じた。④については、戦争と芸術作品の帰属の問題を通して、イタリアとフランスのあいだの文化交流と政治的対立の関係を論じた。

## 2. 研究成果実績の概要(英訳)

The purpose of this study is to read the "biography" genre of artists in the French Romantic period. The recent studies having shown the importance of the "biography" genre in the 19th century, which was called the "century of biography" (Diaz, 2011; Casalena, 2012; Jefferson, 2012), this study focus on Canova, neoclassical sculptor, who enjoyed the fame in all Europe in the early 19th century, and, especially, on Stendhal's references to this sculptor in his diaries, art criticism, and travelogues. I investigate also Canova's biographies published in the 19th century (Missirini, 1824; Quatremère de Quincy, 1834) and 19th—century dictionaries (Biographie universelle; Biographie nouvelle des contemporains; Annuaire nécrologique). Based on the above, I presented a paper on Stendhal's image of Canova, comparing it with the image of Canova described in the same period. The paper discusses the following four perspectives: 1) the process of production in the studio of sculptor, 2) the role of the patronage in the formation of his career, 3) his relationship with Napoleon, and 4) his contribution to the restitution of art works in Italy in1815. In this way, I was able to discuss not only the issues of the "biography" genre, but also the various issues surrounding the image of the artist in the context of the early 19th century. Regarding the first point, I discussed the characteristics of Canova's studio work in comparison with the writings of Stendhal and his contemporaries. Regarding the second point, I discussed the classical role of "biography" as an "exampla". Regarding the third point, I discussed the relationship between artists and those in power, based on the studies on the image of artists such as Kris, Kurz, and Wittkower. Regarding the last point, I discussed the cultural exchange and the political conflict between Italy and France.

-							
	3. 本研究課題に関する発表						
	発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
	上杉誠	スタンダールのカノーヴァ 「伝記」 の世紀と芸術家像	藝文研究(慶應義塾大学藝文学会)	2021 年			